

標 題 : Mediterranean Diet, Traditional Risk Factors, and the Rate of
Cardiovascular Complications After Myocardial Infarction
Final Report of Lyon Heart Study
地中海食事、従来の危険因子および心筋梗塞後の心臓血管系合併症
リヨン心臓研究の最終報告書

著 者 : M. de Lorgeril, et al. (フランス INSELM、他)

掲 載 誌 : Circulation 99: 779-785 (1999)

要 旨 :

背 景 : リヨン心臓研究は、最初の心筋梗塞後の再発率を地中海食事が低下させるかを試験する目的のランダム二次予防試験である。中間解析で追跡 27 ヶ月後に、顕著な予防作用が示された。

延長した追跡(患者当たり平均 46 ヶ月)の結果を示し、そして食事パターンと従来の再発危険因子との関連を取扱う。

方法および結果 : 心臓死亡と非致死性の心筋梗塞の結合(CO1)、前項プラス命にかかわる二次評価項目(不安定な狭心症、脳卒中、心不全、肺または末梢の栓塞)(CO2)、前項プラス入院を必要とする命にかかわらない事態(CO3)の評価項目組合せ 3 種類を研究した。

地中海食事群で、CO1 は低下し(14 件 対 44 件西欧食事群、 $p=0.0001$)、CO2 も(27 件 対 90 件、 $p=0.0001$)、CO3 も低下した(95 件 対 180 件、 $p=0.0002$)。

調整した危険因子は 0.28 から 0.53 の範囲であった。

従来の危険因子の間で、総コレステロール(1 mmol/l は 18%から 28%のリスク上昇と関連)、収縮期血圧(1 mmHg は 1%から 2%のリスク上昇と関連)、白血球数($>9 \times 10^9/L$ で調整リスク比は 1.64 から 2.86 の範囲)、女性であること(調整リスク比は 0.27 から 0.46)、およびアスピリン使用(調整リスク比は 0.59 から 0.82)はそれぞれ有意に独立して再発と関連した。

結 論 : 地中海食事パターンの予防作用は最初の心筋梗塞の 4 年後まで維持され、以前の中間解析が確認された。

高い中コレステロールおよび血圧などの主な従来の危険因子は独立した共通の再発予想因子と示され、主な危険因子と再発との通常の関連を地中海食事パターンは少なくとも質的には変化させないと示された。

つまり心臓血管系疾患の有病率と死亡率を低下させるための総合的な戦略は、第一に心臓血管系予防食事を入れるべきである。

修正可能な危険因子の低下を目的とする他の手段(薬剤?)と組合すべきである。その 2 つの方法を組合せる研究が必要とされる。
